

## 平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- 一人ひとりの個性の伸長を図る教育活動により、将来社会に貢献できる能力と豊かな人間性を持つ人材を育成し、地域に信頼される学校をめざす。
1. 生徒一人ひとりが、自分の持つ能力を十分に発揮できるよう、学習指導、生徒指導、キャリア教育を推進する。
  2. 守るべき規範と果たすべき役割を自覚し、社会に貢献するという志を持つ生徒を育成する。
  3. 中学校との連携、保護者や地域との連携を推進し、地域での存在価値と信頼感を高めていく。

## 2 中期的目標

- 1 確かな学力の育成
  - (1) 「わかる授業」「参加する授業」をめざした授業の質の向上に取り組み、自ら学ぶ生徒を育てる。
    - ア 教員相互の授業見学、授業アンケートを効果的に活用した授業力の向上に取り組み。
    - イ 教室等に固定式プロジェクタを設置するとともにタブレット型PCを導入して、ICTを活用した授業づくりを推進し、自ら学ぶ生徒を育てる。

※ ICTを活用した授業(平成25年度約500授業時間/年)を、平成28年度には年間2000授業時間以上にする。

※ 授業アンケートにおける興味関心、知識技能に係る生徒の満足度(平成25年度70%)を上昇させ、平成28年度には80%以上にする。

※ 学校教育自己診断における生徒の授業満足度(平成25年度58%)を、平成28年度には70%以上にする。

※ 中途退学者を減少させ、平成28年度末には在籍の1%以下にする。
  - (2) 一人ひとりの学習状況に応じた学習指導を実践する。
    - ア 習熟度別少人数展開授業の充実を図る。
    - イ 学力定着のための補習や発展的学習を進める講習を計画的に実施する。

※ 原級留置生徒を減少させる。
- 2 豊かな人間性をはぐくむ生徒指導の充実
  - (1) すべての教育活動を通じて、規範意識、自らを律し他人を思いやる心を育てる。
    - ア 基本的な生活習慣の確立を図るため、欠席、遅刻についての指導を強化する。
    - イ 授業規律の確立を図る。
    - ウ 総合的な学習の時間、LHRを計画的に実施し、規範意識の育成、人権尊重の教育、国際理解教育を推進する。

※ 欠席・遅刻について前年度比10%の減少を図る。
  - (2) 生徒の自主的活動を支援し、可能性を最大限に伸ばす教育を実践して、自己肯定感を育てる。
    - ア リーダー研修を推進し、体育祭・文化祭等の学校行事の充実を図る。
    - イ 部活動の活性化を図る。
    - ウ 長期欠席者等への相談体制の充実を図る。
    - エ 一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な支援の充実を図る。

※ 部活動加入率を増加させ、平成28年度末には45%以上をめざす。
  - (3) 保護者や地域との連携を図り、社会に貢献するという志をはぐくむ。
    - ア 地域の行事等に協力するとともに、あいさつ運動、清掃活動を活性化する。
    - イ 学校行事への保護者、地域からの参加を促進する。
- 3 「やる気」を起こさせるキャリア教育のさらなる充実
  - (1) キャリア教育のさらなる充実を図り、主体的に進路を決定する生徒を育てる。
    - ア 進路指導部、学年が協力して、総合的な学習の時間、LHRを計画的に実施し、望ましい勤労観・職業観を養うキャリア教育を推進する。
    - イ キャリアカウンセリング、就職学習会、模擬面接、応募前職場見学等の指導を個々の適性に応じて実施する。
    - ウ 進路だよりを定期的に発行し、保護者や地域に適切な進路情報を提供する。

※ 進路未決定者を減少させ、平成28年度末には7%以下をめざす。
- 4 地域の信頼感を高め、学校教育活動を活性化させる学校力の向上
  - (1) 広報活動を推進する体制を強化し、学校教育活動を活性化させる。
    - ア 中学校訪問、学校見学会、学校説明会等を計画的、組織的に実施する。
    - イ 学校紹介ビデオ、ポスター等を作成し、積極的な情報発信に努める。
  - (2) 組織的、継続的に学校力の向上を図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年10月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【学習指導等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員が授業方法についての検討や研修を積極的に行い、ICTの活用等、生徒の実態を踏まえた学習指導方法の工夫改善を行った(H25・75.5%⇒H26・87.2%)結果、生徒・保護者の授業満足度が増加した。</li> <li>・到達度の低い生徒に対する学習指導については、全体的課題としての取り組みが中退率の低下等の成果を上げているので、学習意欲の高い生徒に対する学習指導についても学校全体としての取り組みとする必要がある。</li> </ul> <p><b>【生徒指導等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が教育相談体制を整備し(H25・79.6%⇒H26・89.7%)、生徒指導において家庭との連携(H25・85.7%⇒H26・97.4%)、関係機関との連携(H25・85.7%⇒H26・94.9%)を強化した結果、生徒の教育相談満足度が上昇(H25・53.9%⇒H26・63.0%)、欠席・遅刻・懲戒件数が減少した。</li> <li>・学校全体で、生徒を積極的に褒め自信を持たせる教育(H25・75.5%⇒H26・89.7%)、生徒が主体的に活動できる支援(H25・81.6%⇒H26・87.2%)を推進した結果、自己肯定感、規範意識、人権尊重、生徒指導満足度、学校行事満足度はいずれも上昇した。</li> </ul> <p><b>【進路指導等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・系統的キャリア教育、生徒一人ひとりに応じたきめ細かい指導(H25・87.8%⇒H26・97.4%)のさらなる充実の結果、キャリア教育満足度は上昇した。今後も、「多様な進路希望の実現」を本校の特色としたい。</li> </ul> <p><b>【学校運営等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長の教育理念や学校運営の考え方のもと、目標・課題を明確にした学校経営計画に基づくPDCAサイクルによる学校経営が定着した。</li> <li>・「伝達研修」は定着したが、校内研修、初任者等経験の少ない教職員の育成体制、仕事分担等に課題がある。</li> </ul>	<p>第1回(7/8)『平成26年度学校経営計画について』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学した生徒が、充実した高校生活を送れるよう、現在の指導を継続してほしい。</li> <li>・「中途退学者数の減少」という目標の実現は、地域としても嬉しく、学校力を感じる。</li> <li>・ICTを活用した授業は、是非とも推進させてほしい。</li> <li>・豊かな人間性を育む生徒指導の方針は、共感が持てるとともに、ありがたく思う。</li> <li>・校内に溢れる活気ある雰囲気を、学校力の向上につなげてほしい。</li> </ul> <p>第2回(10/24)『進捗状況について』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・満足度、部活動加入率、退学率等、様々な数字が年々よくなっており、学校の取り組みが有効に機能しているのだと感じる。</li> <li>・リーダー研修は社会的スキル習得のいい機会になると思う。「問題解決力」を養うものが取り入れられるといい。</li> <li>・『やる気』を起こさせる」というのはキーワードで、授業や部活、生徒会や行事などがよい雰囲気を醸し出し、生徒や教師のやる気を出すいい循環になっていると思う。</li> </ul> <p>第3回(1/30)『学校評価(案)について』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した視覚に訴える教材は、生徒の興味・関心を高め、集中して授業を聞くなどの効果が期待される。また、視覚教材はデータの蓄積と継承が容易であるため、教員同士の共有化や、授業力の向上にもなると思う。しかし、教材作りに係る教員の負担は大きいので無理をしない範囲で進めてほしい。</li> <li>・現在保護者向けに配布している「門西だより」を、市役所に置いたり市内の小中学校に配布するなどして、ICTを活用した授業について等の情報発信に努めてほしい。</li> <li>・「進路未決定者」を減らす為に、早期からキャリア教育を進めるのはすばらしいことであるので、継続してほしい。</li> <li>・労働に関する正しい知識を生徒に伝えることで、フリーターやアルバイトではなく、正規雇用を選ぶことができるよう、粘り強い指導を続けてほしい。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1)「わかる授業」「参加する授業」をめざした授業の質の向上に取り組み、自ら学ぶ生徒を育てる  (2)一人ひとりの学習状況に応じた学習指導を実践する	(1) ア・教員相互の授業見学を年間を通じて積極的に実施する。強化月間を設定し、授業の質の向上について意見交換を行う。 ・授業アンケート結果を各教員及び教科で効果的に活用する。 ・初任者の研究授業等、教員研修を充実し、授業力向上の取組みの活性化を図る。 イ・ICTを活用した授業づくりを推進し、自ら学ぶ生徒を育てる。  (2) ア・各学年、教科で、習熟度別少人数展開授業の充実に取り組む。 イ・学力定着のための補習や発展的学習を進める講習を各学年、教科、教務部、進路指導部が計画的に実施する。	(1) ア・全教員による授業見学月間を年間2回実施。 ・2学期の興味関心、知識技能に係る授業アンケート満足度74%以上。 イ・ICTを活用した授業年間1000時間以上。 ・学校教育自己診断における生徒の授業満足度62%以上。 ・中途退学者18名(在籍比2.4%)以下。  (2) アイ・単位不認定数の減少。 ・原級留置生徒の減少。 イ・補習講習参加者の増加。	(1) ア・教員相互の授業見学強化月間を6・11月に実施し、教科会で意見交換を行い職員会議で共有した。(○) ・授業アンケートを7・12月に実施し、結果を踏まえた振り返りシートを作成した。2学期の興味関心、知識技能に係る授業アンケート満足度は75.0%(H25・71.9%)。(◎) ・ワールドカフェ形式の授業力向上研修を6月に実施、初任者の研究授業・授業力向上研修も実施した。(◎) イ・ICTを活用した授業づくりのためのプロジェクトチームを立ち上げ、他校の授業見学の伝達研修、プロジェクタ・タブレット型PC・書画カメラの活用方法の研修を行う等、ICTを活用した授業づくりを推進した。(◎) ・ICTを活用した授業は1233時間。(情報科除く)(◎) ・学校教育自己診断における生徒の授業満足度62.1%。(○) ・年度末までの中途退学者は20名(H25・23名)に減少。(△)  (2) ア・1年国語で確認テスト・作文添削・プレゼンテーション指導を実施、1・2年数学・英語でも小テストを実施、統一教材の使用等、各学年、教科の統一した取組みを行った。(◎) イ・放課後補習・講習、考査前補習、夏期・冬期講習、入試対策講習、漢検・数検・英検・ワープロ検定前講習を実施し、確かな学力の育成、進路実現に成果を上げた。(◎) ・各種検定受験者(講習参加者)数は増加。漢検・英検・数検では、2級に合格者が出た。(◎) アイ・単位不認定数(541→492)、原級留置生徒数(25→28)(○)
2 豊かな人間性をはぐくむ生徒指導の充実	(1)すべての教育活動を通じて、規範意識、自らを律し他人を思いやる心を育てる  (2)生徒の自主的活動を支援し、可能性を最大限に伸ばす教育を実践して、自己肯定感を育てる  (3)保護者や地域との連携を図り、社会に貢献するという志をはぐくむ	(1) ア・生徒指導部、各学年、担任が協力して、欠席、遅刻について段階的な指導を行う。 ・年間5回の一斉登校指導を通し、遅刻、制服、頭髪についての指導を継続する。 イ・指導方針の統一、教室環境の整備により、授業の集中力を高め、授業規律の確立を図る。 ウ・総合的な学習の時間、LHRを計画的に実施し、心のアンケートを行う等、いじめの防止、規範意識の育成、情報リテラシーの育成、人権尊重の教育、国際理解教育を推進する。  (2) ア・生徒指導部、西高祭委員会、学年が協力して、リーダー研修を充実させる。 ・生徒自治の精神を養い、体育祭、文化祭、修学旅行等の学校行事を成功させて、自己肯定感を育てる。 イ・部活動の継続を支援するため、顧問を中心にきめ細かい指導を実践する。 ・門真西高カップバスケットボール大会、学校見学会部活動体験等、中学校との交流の機会を広げ、部活動の活性化を図る。 ウ・教育相談委員会、学年会、中退防止連絡会が情報を共有して、長期欠席者等への早期対応を行うと共に、SC、関係機関との連携を推進し、相談活動を充実させる。 エ・一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な支援充実のため、「高校生活支援カード」を活用し、「個別的教育支援計画」を作成する。  (3) ア・門真市の行事への協力を行う。 ・学校全体で「おはようあいさつ運動」、校外の清掃活動「ピカピカ隊」を活性化させる。 イ・三者(生徒・保護者・教員)交流委員会を活性化し、学校行事への保護者、地域からの参加を促進する。 ・学校保健委員会を活性化させる。	(1) ア・欠席・遅刻の前年度比10%減少。  イ・指導方針を統一した授業規律の確立。 ウ・心のアンケートの実施と実態把握及び適切な対応。  (2) ア・リーダー研修参加者の満足度、肯定的意見85%以上。 ・学校行事満足度の上昇。 イ・部活動加入率40%以上。  ・年間1000人以上の中学生、100人以上の中学校教員との交流。 ウ・長期欠席者の減少。  エ・「高校生活支援カード」活用の定着。 ・「個別的教育支援計画」の作成と適切な支援。  (3) ア・参加する生徒層の広がり。 ・参加教職員数の増加。 イ・学校行事への保護者、地域の参加数の増加。 ・年間2回以上の委員会実施と保護者の参加。	(1) ア・欠席者7.6%減少、遅刻者24.2%減少。生徒指導部と学年が連携した遅刻回数に応じたカウンセリングマインドを持った個別指導と全教員による一斉登校指導、遅刻情報のリアルタイム共有、1年生の「遅刻0の日運動」が効果を上げた。(◎) イ・授業遅刻への統一した指導、授業開始時の挨拶の励行等により、授業への集中、授業規律の確立ができた。(◎) ウ・「安全で安心な学校生活を過ごすために」アンケートを6月に実施、「心のアンケート」を12月に実施し、悩みを抱えている生徒の把握と個別対応を行った。来年度のLHR計画に活用できるように、1月に「セルフコントロール」に関する教員研修を実施した。(◎)  (2) ア・リーダー研修は、予定の3回(4・11・1月)を実施。内1月は宿泊研修とし、生徒が行う授業にも挑戦した。2月実施の参加者アンケートで概ね全員が満足と回答。(◎) ・学校行事満足度は、生徒・保護者ともに上昇。(◎) イ・あいさつ運動での入部勧誘、1年生フロア掲示板への部活動ポスター掲示により、部活動加入率は43%に。本校が公式戦等の試合会場となる、学校説明会での部員による説明・案内を行う等、部活動の活性化が推進された。(◎) ・門真西高カップをはじめとして、中学生1100人、保護者180人、引率教員140人との交流を実施し、中学校との交流を深めた。(◎) ウ・教育相談委員会がSCと連携したきめ細かい指導を行ったが、長期欠席者(40日以上)は、25年度14名、26年度18名と増加した。(△) エ・「高校生活支援カード」を活用した面談を実施するとともに、要支援者3名の「個別的教育支援計画」を作成した。教科担当会議やケース会議を開催し、近隣支援学校及び専門機関とも連携して、継続支援を行った。(◎)  (3) ア・門真市文化祭に参加し、生徒会がインタビューやナレーション等を実施、茶道部がお茶席を運営した。(○) ・「おはようあいさつ運動」は年間5回・23日間で延べ1513名が参加。部活動への勧誘、体育祭・文化祭の活性化等毎回テーマを決め、参加する生徒層は広がり、日常的に挨拶をする生徒が増えた。(◎)参加教職員数も増加した。(◎) ・「ピカピカ隊」は第10回まで1249名が参加。校外活動、校内清掃・除草が定着し、早朝朝ランテアへ広がった。(◎) イ・「門西だより」を毎月発行する等、生徒・保護者への情報発信に努めた結果、行事への保護者参加数は上昇した。(◎) ・第1回を10月に開催した。「食生活」をテーマに生徒保健委員会の発表、守口保健所の管理栄養士さんの講義、協議を実施。保護者参加。第2回を3月に実施。(◎)
3 キャリア教育「やる気」を起こさせる	(1)キャリア教育のさらなる充実を図り、主体的に進路を決定する生徒を育てる	(1) ア・進路指導部、学年が協力して、1年生でニート防止教育講演会、職業観育成ガイダンス、2年生で進路体験学習等、3年生で進路別説明会等を生徒の実態に応じて企画・実施し、望ましい勤労観・職業観を養うキャリア教育を推進する。 イ・就職学習会を3年生で実施する。 ・模擬面接を様々な形態(集団・個人、教員・ハローワーク・外部講師等)で実施し、実践力を養う。 ・応募前職場見学を充実させ、受験事業所と生徒の希望とのミスマッチを防ぐ。 ウ・進路だよりを定期的に発行し、保護者や地域に適切な進路情報を提供する。	(1) ア・キャリア教育満足度の上昇。 ・進路未決定者10%以下。 イ・就職学習会の1学期・週1回の実施。 ・模擬面接の一人5回以上の実施。 ・応募前職場見学の一人2か所以上の実施。 ・就職内定率95%以上。 ・アルバイト・フリーター希望者5%以下。 ウ・進路だよりの年間5回以上の発行	(1) ア・1年生は12月ニート防止教育講演会、1月職業観育成ガイダンス、2年生は7月に進路体験学習、3年生は進学・就職講座(全5回)、4・7月に進路別説明会を実施し、キャリア教育満足度はH25・69%→H26・75%に上昇した。(◎) ・進路未決定者は23%。(△)内5割は縁故・自己就職希望者、3割は進学予定者。 イ・就職学習会を1学期は週1回のペースで実施し、夏休み、9月にも継続実施した。(○) ・模擬面接は様々な形態(集団・個人、教員・ハローワーク・外部講師等)で一人6回以上実施し、生徒アンケートでは肯定的意見が多かった。(◎) ・応募前職場見学は、就職希望者全員に一人2か所以上実施した。(延べ126名が73事業所を見学)(○) ・学校紹介就職希望者内定率96.2%(◎) ・アルバイト・フリーター希望者4.2%(◎) ウ・進路だよりは、7回発行し、「進路のしおり」を保護者懇談で全学年に配布する等情報発信に努めた。(◎)
4 力の向上 地域の信頼感を高め、学校	(1)広報活動を推進する体制を強化し、学校教育活動を活性化させる。  (2)組織的、継続的に学校力の向上を図る。	(1) ア・広報委員会を中心として、学校全体で、中学校訪問、学校見学会、学校説明会等を計画的、組織的に実施する。 イ・門西だより、学校紹介リーフレット、ビデオ、ポスター、クラブガイド等を作成し、教育活動の積極的な情報発信に努める。  (2) ・日常的なOJTの推進に努め、経験年数の少ない教職員の研修の充実を図る。 ・府教育センターの研修等を活用し、伝達研修の充実を図る。	(1) ア・広報活動を推進する体制の強化。 ・参加中学校関係者数、参加教職員数の増加。 イ・効果的な情報発信。  (2) ・初任者等研修の年間8回以上の実施。 ・伝達研修の適切な実施。	(1) ア・本校で実施する学校見学会は5回開催。参加中学生は364名・保護者38名で減少。校外実施の学校説明会は6か所(説明した中学生186名、保護者91名)に参加。全教員が校外外ともに少なくとも一回参加する体制で実施し参加教職員数は増加した。(○) イ・学校紹介リーフレット(A4折り込み)、部活動ガイド(A4冊子16ページ)、学校説明会用パワーポイント等を作成するとともに、新たにタブレット型PCを活用した学校紹介を行い、効果的な情報発信に努めた。(◎)  (2) ・初任者等の研修を7回実施。(△) ・伝達研修を7回職員会議で実施。(◎)